



## 研修制度の変更と 山陰労災病院の現況について

山陰労災病院 研修担当 杉原 三郎

西部医師会の諸先生には、平素より公私共に大変お世話になっております。

平成16年度から開始された医師卒後臨床研修制度は、紆余曲折を経て平成22年度から一部変更になりました。旧プログラムは1年次に内科6ヶ月、外科3ヶ月、救急・麻酔3ヶ月、2年次に小児科、産婦人科、精神科、地域保健・医療それぞれ1ヶ月、そして鳥取大学のプログラムに合わせて放射線科1ヶ月、残る7ヶ月を自由選択とするものでした。新プログラムでは1年次に内科6ヶ月、救急部門3ヶ月、外科、小児科、産婦人科、精神科、麻酔科の5科目中2科目を選択必須科目とし、地域医療1ヶ月の後は自由選択とするものです。当初は自由度が大きくなったように思いましたが、旧プログラムにあった必修経験目標の項目がそのまま受け継がれており、結局小児科、産婦人科、精神科は選択でなく実質必修科目になってしまいます。地域医療もやや概念が変わり、いわゆるへき地医療の実践となりました。また救急・麻酔は、従来は麻酔科研修の感がありましたが、救急部門として救急診察に特化するように求められています。救急部や救命センターが独立している病院はよいのですが、それらを独立して持たない当院をはじめ大多数の病院は、当直を行った日数を2年間で合計3ヶ月分として計算することになります。当院では研修制度開始以来、宿直のdutyはなく、土日祝日の日勤帯のみの当直制度を導入しています。研修医の健康と研修効率を考慮したもので、多分全国的にも珍しいと思っています。山陰労災病院は政策病院として設立時から小児科、婦人科がありませんので、引き続き米子医療センター、博愛病院に、また現在閉鎖病棟を持たない精神科の一部を米子病院に、地域医療として新たに日野病院、日南病院に、それぞれ協力病院・協力施設としてお世話になることになりました。

さて1人の研修医が2年間を通じて必修経験項目を過不足なく経験できるとは限りません。そこで当院のプログラムでは2年次最後の月を「まとめ期間」としました。不足している項目があれば研修科にと

らわれず集中的に経験できますし、項目をクリアしていれば、選択科目をそのまま続行できる訳です。

平成22年4月には新プログラムの研修医として当院は2名の研修医がマッチングしました（定員5名）。ところが、鳥取大学にマッチングした1年次のうち4名が当院で1年次のたすきがけ研修を希望しました。当院のプログラムでは2年間を通して救急外来研修を行い3ヶ月分の救急部門研修とするのに対して、鳥取大学のプログラムは1年次に3ヶ月の救命センターでの研修が救急部門研修になるため、鳥取大学からの研修医の救急部門研修期間がどうしても中途半端になってしまいます。話し合いの結果、2年次に鳥取大学で救急部門を補うことで決着し、合計6名が1年次の研修を開始しています。旧プログラムの2年次研修医は2名おり、これに加えて鳥取大学から2年次の選択科目として、当院の消化器内科、循環器科、麻酔科などで3～9ヶ月間の希望で5名の研修医が予定されています。この5月以降、常時10～11名の大所帯となり、研修医のための部屋、机が不足する事態が起きました。当方は嬉しいやら、情けないやらですが研修医諸君には大変不便な思いをさせ、申し訳なく思っています。こうして多数の研修医が当院での研修を希望してくれるのは、極めて多忙な日常診療にもかかわらず、当院の指導医達が若い研修医をかわいがり、実地の手技を中心に研修させる教育を行い、またそれに研修医達も答えるという良い循環が生まれているためと考えています。当院で研修を終えた研修医達は、それぞれ後輩達に当院の宣伝をしてくれているようで、来年のマッチング前にすでに10名以上の病院見学者があり、当院での研修希望の声を聞きました。5名を選択しなければならず、頭を抱えているのが現状です。今後も鳥取大学はじめ、協力病院と力をあわせ、当地域を中心に一緒に地域医療を担ってくれる若い医師を増やし、育てるために山陰労災病院は努力を惜しまない所存です。西部医師会会員諸氏のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

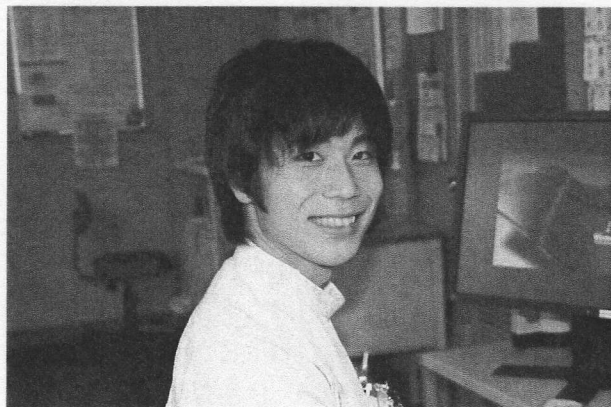
## 研修医紹介

米子市河崎 辻 田 哲 朗

今年度の研修1年目の先生は鳥大、労災病院を合わせても8名とわずかで寂しいかぎりでしたが、それでもこの8名の若い先生方は皆優秀で向上心旺盛でそして何よりもとてもいい目、いい顔をしています。将来を担ってくれる彼らを病院の枠を越えて西部全体で温かくそして厳しく育てて行きたいと思います。

田 本 明 弘 先生

米子東高―鳥取大学。大学時代は野球部に所属。  
労災病院、呼吸器内科、神経内科、糖尿病・代謝内科にて研修中。今まで大学時代に勉強したことと医療現場で実際に体験することとはまったく違うのがわかった。どの先生からも丁寧に教えて頂きとても充実した毎日が送れている。救急外来では1次も2次も含めて、common diseaseも診ることができとてもためになる。研修後は地元に残って内科系に進もうと思っている。



小 谷 美 香 先生

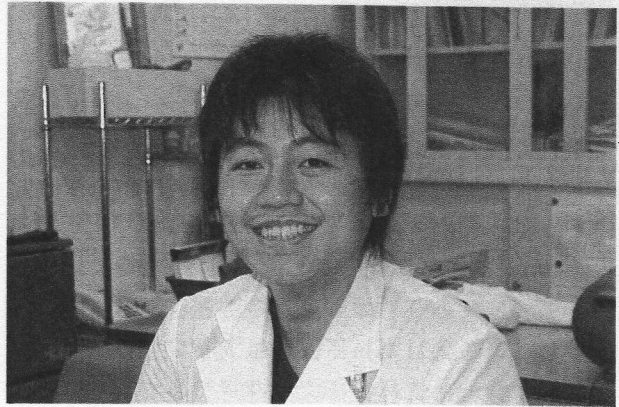
鳥取西高―鳥取大学。大学時代は陸上部で短距離と槍投げ。地域医療研究会にも所属。  
労災病院、呼吸器内科、循環器内科にて研修中。指導の先生からは短時間でポイントをついて教えて頂いている。研修では色々な人に出会い、日々成長している気がする。研修後は放射線科か内科に進みたいが鳥取県内で地元鳥取県のために頑張りたい。



## 藤 井 太 平 先生

岡山高（岡山県）－鳥取大学。大学時代は硬式テニス部に所属。キャプテンも務め、西医体ではベスト4。

研修医になって学生時代よりはるかに充実した毎日が送れている。現在労災病院、循環器内科、消化器内科で研修中。仕事上での責任やプレッシャーがとても心地よく思え、社会人になったとの自覚を持てるようになった。研修後は鳥大耳鼻科に入局予定。



## 吉 岡 佳 奈 先生

明石北高（兵庫県）－鳥取大学。中学、高校はハンドボール部。中学の時には全国優勝を経験。大学時代は硬式テニス部に所属。キャプテンも務める。

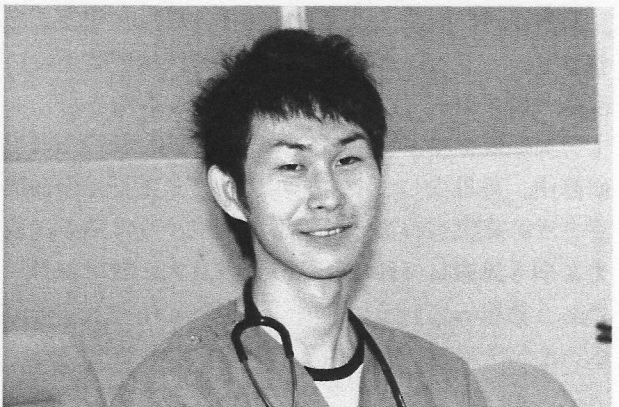
労災病院、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科にて研修中。仕事がとても楽しい。持ち前の明るさと元気を忘れないようにしたい。研修後は米子が好きだし、育てて貰った鳥大に恩義があるから残って耳鼻科に入局予定。



## 細 田 康 平 先生

米子東高－近畿大学。小学、中学とバスケットボール。高校時代はボート部。大学時代はバスケットボール部に所属。

鳥大にて循環器科、救急外来を研修中。学生時代と違って受け身でなくこちらからの能動的な行動が必要だと痛感。指導医の先生からは検査の手技などをじっくりと教えて頂き感謝している。救急外来では2次、3次救急を経験し病歴を取りながら次にどうするかを常に考えるよう指導を受けている。研修後は大学に残る予定で第2内科を意識している。

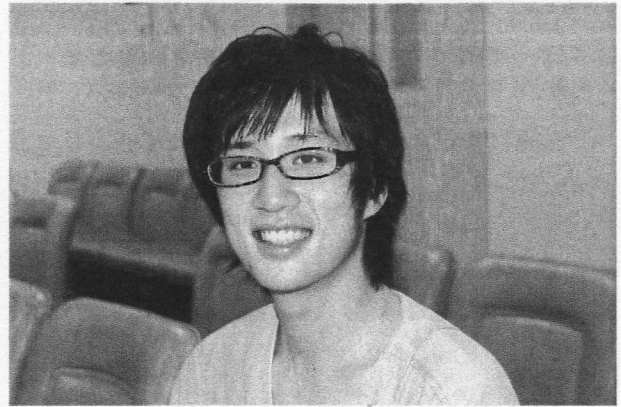


## 奈良井

## 哲 先生

倉吉東高－鳥取大学。高校時代はアーチェリー。大学ではジャズ研に所属。

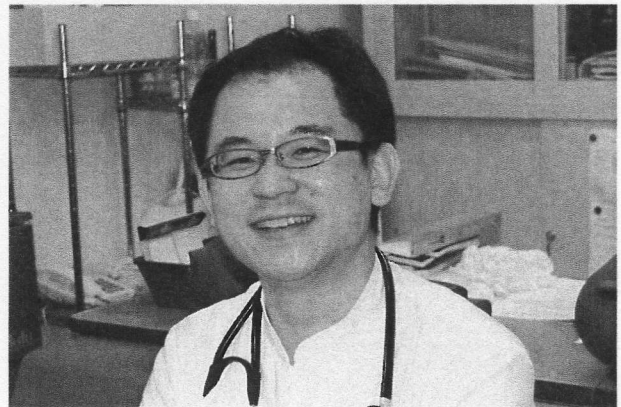
鳥大にて小児科、第1内科を研修中。最初はスタッフの皆さんの仕事の流れに慣れるのに時間がかかった。臨床の間では今まで学生時代に勉強してきたことがほんのわずかだったと痛感。指導の先生からはちゃんと教えて貰っていて、1を聞くと10返ってくるが、そのうちの2ほどしか理解できず、後で勉強している毎日だ。研修後は大学に残りたいと思っていて今のところは小児科を意識している。



## 藤 井 高 広 先生

広大福山高（広島県）－東大理学部－鳥大。高校時代は天文学部、大学時代はACLS同好会に所属。東大では天文学を専攻。

労災病院、神経内科、呼吸器科、消化器内科で研修中。臨床の現場に早く慣れたいがまだまだ出来ないことが多い。患者さんとのトラブルで落ち込んだり、逆に励まされたりで毎日がとても充実している。日々の勉強が大切だと実感している。研修後は麻酔科を考えている。



## 久 家 圭 太 先生

出雲高（島根県）－東大工学部－鳥大。中学、高校はバレーボール部に所属。大学時代は硬式テニス部に所属。東大では化学生命工学科を専攻。

労災病院にて、循環器内科、麻酔科、神経内科で研修中。毎日少しずつスキルアップして行くのが実感でき、充実感がある。指導の先生からは熱心に教えて頂き感謝している。研修後は鳥大・放射線科に進もうと思っている。

